

高岩山トレッキングコース

雲仙岳の山頂から最も南にある高岩山山頂（881 m）へ続く道である。高岩山は杉林で覆われ、頂上からは島原半島の南半分と有明海の向こうの天草諸島の壮大な眺めが楽しめる。

山を登り始めると、参道に沿って多数の鳥居を通り抜ける。新しいものもあれば年月とともに朽ちてしまったものもある。ほとんどの鳥居はここから南にある南島原の人々によって建てられた。南島原の人々は高岩山山頂の祠に祀られている保食神を農業の神として崇めていた。それぞれの鳥居が、豊作や商売繁盛などを山に祈願したひとつの家族、一門、一団を表わしている。

さらに上に来ると、たくさんの大きな丸石が目に入る。20 世紀初期に雲仙で休暇を楽しんだ西洋人たちは、このことから山に「ロッキーヒル（岩だらけの丘）」と名付けた。頂上には保食神を祀る神社と地元の民話である、みそを食べるのが好きだった、みそ五郎の像がある。みそ五郎の話は雲仙と天草で伝わっている。彼は高岩山の頂上に座る大男で海を見下ろしながら、農民たちの畑仕事や漁師の網漁を手伝っていた。

宝原つつじ園

高岩山のふもとには宝原つつじ園がある。ミヤマキリシマ（九州ツツジ）は雲仙の偉大な自然の宝のひとつであり、5 月には赤紫の花が咲き乱れる。

雲仙で自生しているため、山中でよく見られるものの、これほどたくさんのつつじはそうは見られない。ここの生態系は火山活動に適応しており、土地は火山災害後、すぐに自然の状態に戻る。この変化は何段階かで起こる。まず草が、そして低木が生え、その低木が木となり森となる。しかし、このエリアは、ほかの植物を取り除きながら、美しいつつじが埋もれてしまわないように保たなければいけない。